



イラスト:池下重裕

地球に接近する「はやぶさ2」



「分離カメラ」(DCAM3)



「近赤外分光計」(NIRS3)

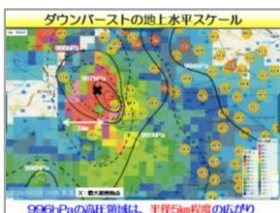
## 小惑星探査機「はやぶさ2」帰還

昨年12月6日、小惑星探査機「はやぶさ2」が6年間、約50億キロメートルの航行の後、地球に戻り、再突入カプセルが無事回収されました。

「はやぶさ2」は、小惑星リュウグウの科学観測やサンプルリターンを目的とした探査機です。明星電気は、衝突実験の状況を撮影する「分離カメラ」(DCAM3)に内蔵される理学観測用カメラ(デジタル系)や、太陽系形成時の水の存在を調査する「近赤外分光計」(NIRS3)を開発し、太陽系の成り立ちや生命の起源の解明を目指す探査ミッションの成功に貢献しました。

明星電気は、世界の人々のより豊かな生活の実現をめざし、生活環境、地球環境、宇宙環境の監視、保全、活用にご貢献することを目指し、宇宙関連事業に取り組んでいます。今後、もこれまでに培った技術を生かし、日本の宇宙開発や社会の発展に貢献していきます。

(担当:宇宙防衛事業部)



発表資料より

## 「第26回風工学会シンポジウム」に参加

日本風工学会、日本気象学会、日本建築学会、土木学会、日本鋼構造協会の5学協会の共催で、11月30日から12月2日までオンラインで開催された「第26回風工学シンポジウム」に参加し、論文発表を行いました。

POTEKAの地上稠密気象観測網により観測された局地的な気象変化の解析結果を報告し、理学/工学分野のさまざまな研究者や技術者のほかに、民間企業から多数参加された方々にも、明星電気の気象観測技術を強くアピールすることができました。

また今回の論文は査読通過し、風工学研究論文集に掲載され、J-STAGE(科学技術情報発信・流通総合システム)にも登録される予定です。

明星電気は、これからも気象観測技術・気象学の発展に貢献していきます。

(担当:気象防災事業部)



豊洲IHIビルのPOTEKA

## 豊洲IHIビル(IHI本社)にPOTEKAを設置

株式会社IHIが参画している豊洲スマートシティ連絡会は、「産官学連携データの利活用による、誰もが快適で活力に満ちたQOL※高いまちづくり」をテーマとした取り組みの一環で、豊洲IHIビルと豊洲センタービルにおいて、明星電気の超高密度気象観測・情報提供サービスPOTEKAを使った豊洲エリアの気象観測を実施しています。この取り組みは、東京都や江東区のほか、複数の民間企業と連携したスマートシティプロジェクトです。

豊洲スマートシティ連絡会では、防災や健康、交通や観光など多方面・多分野においてIoTを利活用し、まちの課題を解決するとともに、多様な施設・個人が共存・共栄する未来都市の実現を目的としています。POTEKAから得られる情報は、地域防災や環境調査など、豊洲エリアに特化した気象データとしての活用を期待されています。

明星電気は、POTEKAを活用した地域の安全・安心なまちづくりに貢献していきます。

※QOL: Quality Of Life (クオリティ・オブ・ライフ)

(担当:気象防災事業部)

【文中:敬称略】

## Sensing & Communication

私たちは、独自の Sensing & Communication 技術により、革新的な商品・サービスを創造し、安全・安心な社会の発展に貢献していきます。